

「脱炭素社会に向けた纖維産業政策の新展開と福井産地の課題」

開催報告

ふくいオープンイノベーション推進機構（FOIP）では、産学官金連携による技術開発や製品開発を支援しています。その重点支援分野として「脱炭素関連技術」にも注力しております。この度、FOIPの一員である福井県立大学の地域経済研究所にて、脱炭素社会の実現に向けた福井県の纖維産地の今後のあり方を考える「脱炭素社会に向けた纖維産業政策の新展開と福井産地の課題」を、イノベーションリサーチ交流会として開催しましたので報告します。

1. 『脱炭素社会に向けた纖維産業政策の新展開と福井産地の課題（IR 交流会）』概要

日 時：令和6年6月25日（火） 13：30～16：30
会 場：福井県纖協ビル 6階 602会議室（福井市大手3丁目7-1）
主 催：福井県立大学 地域経済研究所
参加者：44名

2. 実施内容

（1）講演①「我が国の纖維産業をめぐる現状と課題」

経済産業省製造産業局生活製品課 係長 土川 輝 氏

国内纖維産業の現在の課題、纖維製品の環境配慮に対応している海外の動向、それらを踏まえた纖維産業が今後進むべきサステナビリティの方向性の説明があった。国内市場では、衣料品の低価格化が進み、国内生産量の減少も進んでいるため、海外展開を見据えたモノづくりを行い、国際競争力を強化していく必要性があるとのこと。EU・フランス等では多くの環境配慮の制度整備が進んでおり、これを受け経済産業省は「纖維製品における資源循環ロードマップ」を策定し、2030年を目標に国内市場における主要アパレル企業の情報開示率100%達成などを設定した。



会場の様子



講演①『我が国の纖維産業をめぐる現状と課題』

（2）講演②「福井における纖維産業集積の変化と今後の課題」

福井県立大学地域経済研究所長・東京大学名誉教授 松原 宏 氏

福井県立大学 産学官連携コーディネーター 原田 大暉 氏

福井の纖維産業の構造について、福井県の嶺北地図と県内纖維産業の業種・事業規模を重ねた分布図を用いて説明があった。福井県の纖維産業のように同一産業の中で各工程に特化した企業が集積する「産地型」の地域では、中小・零細企業の廃業が増えると地域内の関係性が薄くなり、出荷額等の減少につなが

るため、今後は地域中核企業の成長や地域外とのネットワーク強化が重要である。脱炭素社会に向けた取組みとして、福井繊維産地では再生ポリエステル糸を利用した製品開発などが増えているとのことであった。



講演②『福井における繊維産業集積の変化と今後の課題』

松原氏



講演②『福井における繊維産業集積の変化と今後の課題』

原田氏

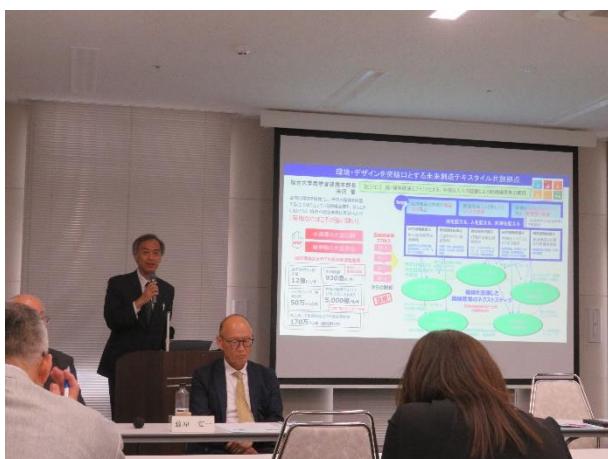
(3) パネルディスカッション

パネラー

経済産業省製造産業局生活製品課係長 土川 輝 氏
福井大学 産学官連携本部長 米沢 晋 氏
一般社団法人福井県繊維協会会長 藤原 宏一 氏
福井県織物工業組合理事長 加藤 英樹 氏

コーディネーター 福井県立大学地域経済研究所長 松原 宏 氏

福井大学の米沢氏から「環境・デザインを突破口とする未来創造テキスタイル共創拠点」プロジェクトについて説明があり、藤原氏と加藤氏が、これから福井繊維産地への期待と意見を交換した。ディスカッションでは、プロジェクトの超臨界染色技術の早期実用化への期待、「繊維製品における資源循環ロードマップ」や各種認証制度への意見、繊維産業の各工程の企業が集積する福井産地は物流コスト削減で脱炭素社会の対応力がある、等の活発な討論が行われた。



パネルディスカッション

(米沢氏)



パネルディスカッション

(左から加藤氏、藤原氏、米沢氏、土川氏、松原氏)

問い合わせ先：(公財)ふくい産業支援センター オープンイノベーション推進部 笹口